

ほっと

NPO法人 ほっと 会報

〒590-0048

堺市堺区一条通19-13 上笠ビル2階

☎ 072-228-3011 FAX 072-228-3012

E-mail npo-hot@nifty.com

ほっとの生活支援員大募集♪

ほっと生活支援員交流会に10人が参加



交流会での意見交換風景

仲村事務局長が ほっとの成年後見活動 生活支援員の活動の実情を説明

7月17日、新しい生活支援員のお誘いを兼ねて「ほっと生活支援員交流会」をほっと事務所3階で開催しました。呼びかけに応じて関心を持っていただいた4人の方々と現在生活支援員として活動しておられる4人を加え、計10名の参加で開かれました。

ほっとの生活支援員の訪問を楽しくする仲間

まず、仲村事務局長から、ほっとが成年後見をしている方への後見活動の実態を説明。お父さんも弟さんも亡くなられ、一人になったAさんの場合、障害者のグループホームが見つからず、B作業所に通えるところにある高齢者施設

設けに入居。その後、月1回ほっとから訪問活動をしていたが、コロナに罹患されて入院。面会にも行けないまま亡くなりました。

Aさんには、従弟さんがおられたので相談の上、死後の手続きは、ほっとで行い、従弟さんに引き継ぎました。

Aさんは、「ほっとの生活支援員が毎月来てくれる」と楽しみにしてくれていました。

「自分に」会いに来てくれる」との思いで行ったなら笑顔でお茶を出してくれたりしました。

他の方も、ほっとの生活支援員の訪問を楽しみにしてくれています。

ほっとの生活支援員活動 仲間に会うのが楽しい

(生活支援員Dさん)

ほっとの設立当時から生活支援員をさせてもらっています。当初は、「生活支援員の役割とは？」と手探りで活動をはじめました。行動障害の仲間には、支援活動がなかなか難しいこともありましたが、みんなと相談しながら、乗り越えてきました。仲間も

「今どきの若者」なので、その感覚に合わせるのに一時苦労しました。でも、自分の子どもに会うような気持ちで、仲間に会うのが楽しいです。

(生活支援員Eさん)

本人が生まれ、生きてきた歩み・歴史を大切にしたいと思っています。また、仲間の暮らしがグループホームは、「家」です。なので、お部屋に入る時には「入って良いですか？」と必ず声をかけてから入るようにしています。

(生活支援員Fさん)

はじめは、訪問した生活支援員2人でお金のチェックをしていました。しかし、その後仲間のGさんが、領収書を見せて「これ！これ！」と言っ

参加者の感想

(Hさん)

・2回目の参加で、少しだけ頭に入ってきました。楽しいとのことなので、一回体験してみようかなと思います。ただ、父、母ともに90歳を超えており、介護を抱えて大変なのです。

(Iさん)

・こんな活動があるんやと初めて知りました。ただ、私の子どもは重度重複障がい、医療的ケアも必要です。それが大変なんです。子どもは、親しか守れないと思っていました。

(Jさん)

・私も父、母を看取りました。私も、成年後見が必要になると思っています。

まとめ(仲村事務局長)

・本人が生活を楽しめるように！我慢して生活していいか？本人の生活をどう広げるか！を考えて生活支援したいと思っています。
・いろんな判断が求められた場合、その場では判断しないで、一旦ほっとに持ち帰り相談して貰うようにしています。安心して支援員になって下さい。

て、私の肩をたたいて自分から話しかけてくるようになりしました。それに応えていると盛り上がり、いろいろな話しかけてきてくれます。それで、一人はお金のチェック、もう一人(私)はGさんの話を聞きながらおしゃべりを楽しんでいます。Gさんも言葉がどんどん出てくるようになりました。

●生活支援員からの要望

作業所での出来事も話題になります。なので、作業所の事も事前に知ってほしいです。そうすれば、その話題でもいろいろ対話が弾み、盛り上がりれると思います。



手づくりの「再生機」で作業

再利用する粘土に戻す
陶芸班の部屋に入ると、直ぐのところで、Aさんが手づくりの「再生機」(職員作成)で、素焼き前の作品を細かく砕いているところでした。開けば、型をつくり乾燥させても思いつくようなものにならなかつた作品を細かく砕き、水に浸けて元の粘土に戻すんだとのこと。次の陶芸作品の粘土として再利用するために。

この間、おおはま作業所の紙すき班や麦の会共同作業所のクッキーづくりなどを掲載し、好評を頂きました。そこで、今後何回かに分けて、仲間の仕事の姿を改めて取り上げていきたいと思います。



ロクロを回してお皿をつくるBさん

ロクロを回しながら皿の型をつくる作業しておられるBさんにお聞きすると、「大変や!でんかかったらアカン。頑張る!」と集中して頑張っておられます。その隣には、Cさんが絵付けをしておられます。実は、この皿は、あるお店からの注文(20枚)だそうです。だから、「仕上がるまで頑張る!」と一生懸命頑張るなかまの気持ちが伝わってきます。

お店からの注文のお皿づくりに集中!

**“猫ちゃん”だけでなく
埴輪など新作づくりも♪**

また、隣では、小さな埴輪をつくっています。一つ一つ手づくりなので、作品はみんな違いがあり、味が感じられます。また、その横では、埴輪を刻印しての小皿づくりや、埴輪・古墳に因んだ湯飲みやコーヒーマグづくりも...。



埴輪などの新作も

**陶芸には沢山の工程が
分担・協力して仕上げ**

陶芸と言っても、型をつくり、乾燥させ、素焼き(約750℃)、色付け、本焼き



模様を描く仲間

(約1200℃)、完成・値付けとの工程があります。みんなが分担し協力して仕上げます。また、全てが商品になるわけではありません。途中でヒビが入ったり、焼き上げると色合いが思うようにならなかつたりするものも多々です。でも、「楽しい!」と笑顔でした。

もはや、「陶芸班」ではなく、「陶芸工房」の職人さん♪という感じでした。今後が楽しみです。

**職員で話し合い
陶芸の仕事を残す!**

そこで、職員の方に聞くと、「バブル崩壊後、売れなくなったり、100円均一のお店の

進出で、続けられなくなったところが多いのではないかと。しかし、かたくらでは、様々な障がいのあるなかまのことを考え、陶芸の仕事は何とか残そうと職員で話し合いました。今では、なかまの力を活かした作品づくりや社会の動きに合わせた作品づくり、そして作業を分担してみんなで仕上げている」とのことです。

**みなさんのご協力
販路を確保・拡大♪**

また、販路のことをお聞きすると、「長い間、先輩の方々が培った地域の方々とのつながりに助けられています。各校区のまつり・イベントに本店を出して作品を販売したりしています。勿論、ご家族の方々が販路を拡げてきていただいていることも大きく、大変ありがたいです。いろんな方々のご協力でここまでできました。感謝です」と語っておられました。

ほんと 年金相談会

毎週金曜日
(13時~15時)

- ・会員の方: 3,000円
 - ・会員以外: 5,000円
- 事前に電話予約を!